

## ワンポイント アドバイス 補聴器の特性測定(テストモードの使い方)

補聴器に搭載されている機能には、特性を測定する際に影響を及ぼすものがあります。例えば、測定中に騒音制御の機能が働くと、テスト信号をノイズと判断して利得を下げる可能性があるため、正確に測定することができなくなります。

このことを防ぐため、ワイデックスの補聴器では、特性を測定するためのモード(=テストモード)があります。テストモード設定時には、騒音制御・ハウリング制御は無効、マイクは無指向性、時定数(リリースタイム)は短くなります。

### 1. テストモードの種類

テストモードには3つの種類があります。主に使用するのはテストモード1と2ですが、目的に応じて使い分けて下さい。

#### テストモード1

補聴器の性能を確認する場合に使用します。補聴器の設定は、現在の調整内容に関係なく、テスト用の状態になります。

疑似耳で測定した場合は、カタログ・テクニカルデータの値と比較することができます。  
(iP5などの携帯用プログラマーでは、テストモード1のみ使用できます。)

#### テストモード2

調整内容の記録、医療機関への報告などのため、ユーザーの設定状態で測定する場合に使用します。例えば、ユーザーが使用する状態での最大出力音圧を測定する場合や、50dB SPL または 60dB SPL で周波数レスポンスを測定する場合などに使用します。

#### テストモード3

ユーザーの設定状態で、利得を固定してリニア増幅で特性を測定する場合に使用します。補聴器が非リニア増幅の場合、入力音が小さい時に利得が大きく、入力音が大きい時に利得が小さくなります。このため、例えば、小さい入力音に対する利得を測定しようとした時に、周囲で大きな音がした場合は、利得が小さくなり、正確に測定できない場合があります。テストモード3では、このようなことを防ぎ、利得を固定した状態で測定することができます。IG ソフト・IG ノーマル・IG ラウドのいずれかを選択すると、ユーザーの設定状態で、それぞれの利得に固定されたりニア増幅になります。

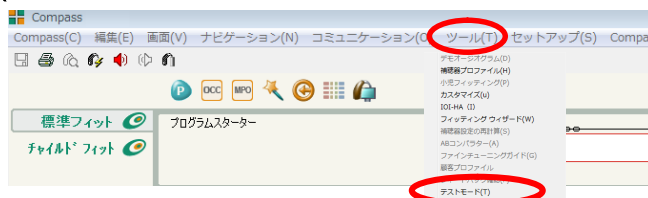
### 2. テストモードでの測定手順

#### STEP 1

テストモード画面への入り方(シリーズによって入り方が異なります)

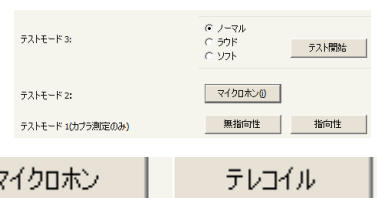
#### ・センソヴィータ、ブラビジモライト、ブラボーの場合

Compass 画面の「ツール」から「テストモード(T)」を選択し、「マイクロホン」を選択します。(テレコイルの特性を測定する場合には「テレコイル」を選択します。)



センソヴィータの画面

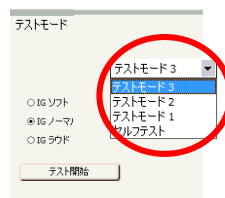
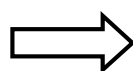
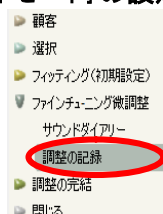
ブラビジモライト、ブラボーの画面



ブラビジモライト、ブラボーの場合は、騒音制御などが搭載されていないため、テストモード2がありません。ユーザーの設定状態で特性を測定する場合は、テストモードを使用せずに測定して下さい。

#### ・インテオ、アイキア、フラッシュの場合

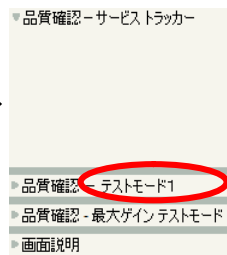
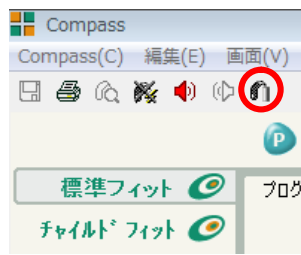
Compass 画面の「ファインチューニング微調整」から「調整の記録」へ行き、左上の「Test」アイコンをクリックして「テストモード」の設定画面を開きます。用途に合わせたテストモードを選択します。



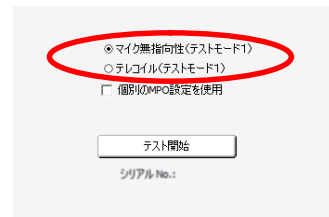
## ・マインドシリーズ、リアルの場合

### ・テストモード1

Compass 画面の「ファインチューニング微調整」から品質確認のアイコン「品質確認 - テストモード1」を選択し、「マイク無指向性」を選択します。

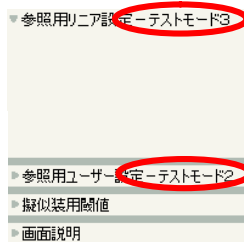
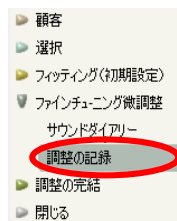


をクリックします。



### ・テストモード2、3

Compass 画面の「ファインチューニング微調整」から「調整の記録」へ行き、「テストモード」の設定画面を開きます。



## STEP 2

・補聴器を、Compass に接続した状態で特性装置に入れ、特性を測定します。  
RIC(パッション、フュージョン)/ RITE(フュージョン)の特性の場合は、下記を参照ください。



例、耳かけ



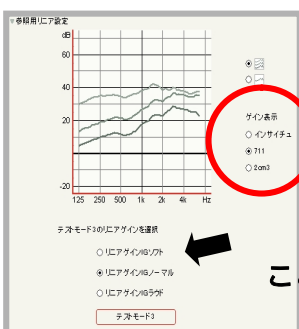
例、耳穴

## STEP 3

・補聴器を特性器から取り出し、「OK」で設定したテストモードを解除します。



## 3. 「調整の記録」画面に表示される「参照用ニア設定」について



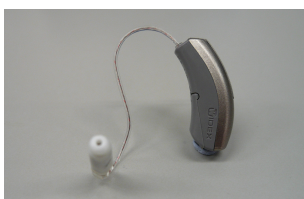
このグラフでは、ユーザーの設定状態での IG ソフト・IG ラウド・IG ノーマル、それぞれのゲイン特性を参照することができます。

グラフの表示は、「インサイチューゲイン」「711(疑似耳)」「2mlカブラ」の3種類から選択できます。

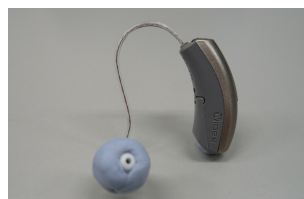
ここから「テストモード3」を開始することもできます。

## 4. RIC(パッション、フュージョン)/RITE(フュージョン)の特性を測る場合

RIC/RITE の特性を測る場合は、耳あな形補聴器用のカブラアダプターを使用します。



1. 耳せんを取り外します。



2. 耳あな形補聴器と同じ様に音口の周りをパテで覆います。



3. レシーバー先端の位置が中心になるようにアダプターに取り付けます。